

アジア太平洋で教育事業

ウェブ技術講座 デジタル人材育成

プログラミング言語などの学習講座を提供するインターネット・アカデミー（東京都新宿区、西洗人社長）は、教育事業でアジア太平洋地域に参入する。ウェブ技術の国際標準化団体「W3C」が推進する技術を講座を通じて教え、デジタル人材の育成を図る。まずは台湾で12月に教育プログラムを開き、その後、東南アジアにも進出する。2025年には台湾と東南アジアを合わせたアジア太平洋地域での受講者を100人にすることを目指す。

アジア太平洋地域を

対象に、W3Cが標準化した技術の普及活動を担うウェブ・コンソーシアム・アジア・パシフィック（WCAP、東京都千代田区）と連携する。WCAPは集客などを担い、インターネット・アカデミーは講座を提供する。第1弾としてWCAPと台湾のデジタル発

インターネット・アカデミー

日間開く。講師はインターネット・アカデミーの社員が務める。具体的には、ウェブサイトの制作に必要な言語である「HTML」や「CSS」「JavaScript」を受講者が学ぶことができる。受講者が企画立案からウェブ制作、発表までを行い、ウェブ制作の技術のほか、管理能力まで幅広く身に付けることを促す。

インターネット・アカデミー アジア太平洋地域での方針

- WCAPと連携して、デジタル人材を育成
- ウェブ制作のほか、企画立案や発表時に必要な能力も向上
- 現地の言語への対応も計画

W3Cの標準に準拠したウェブ制作技術を一段と普及させるために、将来的にはインドネシアをはじめとした東南アジアにも教育事業で参入する方針。また受講者の理解を深めるために、現地の言語に対応した講座の提供も目指す。

インターネット・アカデミーは米国といった海外で教育事業を運営してきた実績を持つ。